インクルーシブプレイグラウンド整備及び利用実証実験に関する報告書（概要版）

2022.1.20

1　実証実験の実施の背景と目的

東京都は、「東京都福祉のまちづくり条例（平成7年3月）」を制定以降、関係者の意向やニーズの他、社会情勢などに適合するよう改正を重ね、その効果としてバリアフリー化に向けた様々な施設が充実して来ています。身体的な障害に対しては、このように施設の整備が進んできていますが、一方で**心の障害に対しての取り組みは、まだ十分だと言えません。**

東京2020大会開催を契機に持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）への関心がより高まっています。東京都は「未来の東京」戦略の一つとして、2030年までに「ダイバーシティー・共生社会」への取組みとして「インクルーシブシティー東京プロジェクト」を掲げています。全国的にもインクルーシブの概念が普及するとともに、施設整備への関心が高まり出していますが、障害を持った子ども達も一緒になって安全に安心して遊べる遊具の整備にまでは、残念ながら至っていません。

私たちは、幼少期より**身近な存在である公園での「遊び」を通じ、「インクルーシブな社会」の土台となる理解促進の機会を提供することが重要**であると考え、総合的で質の高い都市環境を創出し「先進的で魅力あるまちづくり」を推進してる「東京臨海副都心」の公園にて、共生社会への新たなチャレンジを実施しました。

【実施内容】

① **都立シンボルプロムナード公園内の芝生広場に3種類の遊具を期間限定で整備し、一般に開放。**

② **実際の利用から得られたデータとノウハウの分析し報告書として蓄積。**

③ **今後の公園整備に活用していくことを目的に報告書の一般公表。**

2　実施内容

会　期　令和３年４月１５日（木）～令和３年７月２５日（日）まで

開催地　都立シンボルプロムナード公園内芝生広場

ポイント　近隣に特別支援学校や各種教育施設もあり、多様な利用者からの意見収集ができ、ニーズの把握が可能だと考えました。

主　催　指定管理者 東京臨海副都心グループ（東京港埠頭株式会社）

共　催　株式会社コトブキ

通常遊具とは違い、インクルーシブプレイグラウンドに必要な5つの要素を多く含む以下の遊具を選択しました。

① 複合遊具：プレイポートワンダーインクルーシブ

介護のしやすさや、カラーリングに配慮するだけでなく、チャレンジングな要素も取り入れた複合遊具。

② 回転遊具：オムニスピナー

内向きに座り、お互いの表情を見ながら遊ぶことのできる回転遊具。

③ サポート付き：3連ブランコ

バンパーシート2座と、サポート付きシート1座の3連ブランコ。

④ ベンチ

お子さまを見守る保護者の方のために設置。

遊び疲れたお子様にも休息場所として使用。

3　期間中の意見など（告知活動は、コロナ禍という事もあり控えさせて頂きました。）

（1）一般利用者

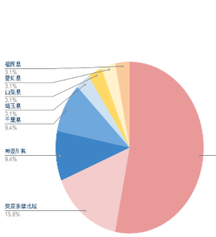
期間限定で設置した「インクルーシブ・プレイグラウンド」への感想や関心を調査するため、利用したお子様や保護者の皆さまを対象にQRコードから、アンケートにリンクする手法を採用し、76件集計しました。

また自由意見では、今後の整備に関する様々なアイデアを頂きました。

（2）視察団

東京都及び神奈川県、埼玉県、千葉県の自治体に対し案内状を用いて告知。期間中32団体より申込があり説明会を実施し、様々な意見を頂きました。

東京23区	17件
東京多摩地域	5件
神奈川県	3件
千葉県	3件
埼玉県	1件
山梨県	1件
愛知県	1件
福岡県	1件
	計 32件



（3）インクルーシブに関する意見交換会の開催

7月13日(火)～7月14日(水)　に東京都の港湾局、建設局、都市整備局の職員と指定管理者の社員を対象に合同の現地見学会とワークショップを開催し、取組みに対する情報共有を図りました。

4　公園における今後の展開について

（1）利用者アンケート、視察での意見、情報共有会でのアイディア

コロナ禍の102日間という限定設置の中、予想を超える反応を頂き、改めてインクルーシブプレイグラウンドへのニーズと関心の高さを再認識することができました。今後、様々な公園での整備が図られる事で、さらに検証が進化し、それぞれの実情に合った必要な情報が提供される事が期待されます。

（2）整備などに関する提案

インクルーシブプレイグラウンドには、通常遊具の機能のほか、さらに５つの要素を併せ持つことで、より「共生社会」の実現に向けた取組に繋がることが検証できました。

また、公園には地域それぞれの特徴があり、個々の課題を解決するために様々な環境整備や調整が必要な事も解りました。例えば、既にある遊具の更新であれば、時代の潮流からも導入のハードルは高くないことから、まずは既存公園内に「共生社会」の土台となる、新たなインクルーシブな５つの要素を持つ遊具を整備するという考え方もあります。

施設は行政が主体となって整備するのが基本ですが、部分的にP-PFIや企業CSRを活用する事も検討の余地があると考えます。

今回の実証実験を受け、都立シンボルプロムナード公園では、要望が多かった**「日陰舎」を加えたセットを整備の「ミニマムタイプ」**として提案します。

整備は、要望や予算に合わせ、徐々に拡充させる手法もあります。

これらを参考にした「遊び場」の整備が進むことで「共生社会」への理解促進と心の障害への取り組みが改善されると確信しています。

（参考）導入イメージ